林業技術センター
普及班便り
（第25回）

いわての林業人4

一　はじめに

今月の普及班便りでは、洋野町で素材生産業をされている大粒来仁孝（おおつぶらいきみのり）さんをご紹介します。

大粒来（おおつぶらい）　仁孝（きみのり）さん

二　人物紹介

【プロフィール】

大粒来さんは旧種市町の生まれ。久慈地域で用材・パルプ・チップなど幅広く取り扱う素材生産業を営んでおられます。

大粒来さんは高校卒業後、鳥取県にあるしいたけ栽培の専門学校でしいたけ栽培を学ばれました。

専門学校卒業後は地元に戻り、お母さんとしいたけ栽培を始められたそうですが、お父さんが経営されていた素材生産業のほうが面白そうだったため、半年ほどでしいたけ栽培をやめて素材生産業を始められたそうです。

以来二十年以上素材生産業を営まれており、平成二十年度には岩手県が取り組む地域けん引型林業経営体の認定を受けたほか、今年度は岩手県林業作業士（グリーンマイスター）の取得を目指して研修を受講されています。

三　林業の仕事

(1)積極的な機械の活用

大粒来さんが経営されている㈲丸大県北農林は、元々お祖父さんが経営されていた木炭原木の買い付けや木炭の販売などを行う会社が前身で、その会社からお父さんが素材生産部門を独立させて起こした会社とのことです。

大粒来さんが素材生産業を始めた当初は、とびを使った木寄せ作業など重労働で大変だったそうですが、グラップルを導入したことで作業効率が大幅に改善されるとともに、重労働から開放されて体が楽になったことで仕事が楽しくなり、朝早くから夜遅くまで機械を使って仕事をしていたそうです。

この経験から、現在の会社には林業機械が数多く導入され、作業の効率化が図られているとともに、新規労働者の確保にも繋がっているとのことでした。

多くの林業機械が活用されています

(2)現在の作業システム

㈲丸大県北農林は、広葉樹班二つ、針葉樹班一つの三班体制。

針葉樹班の作業システムの例を挙げると、ハーベスタで伐倒・造材、グラップルによる木寄せ等の補助作業、フォワーダでの集材、山土場でのグラップルによるはい積みといった流れとなっており、林業機械を活用した効率的な作業システムを目指しているとのことです。

今後、更にグラップルクレーン付トラックやグラップルソーなどの導入を検討されているとのことであり、将来的には四班体制の確立を目指しているそうです。

(3)家族への感謝

大粒来さんは、数年前にトラクタの横転事故に遭い、数ヶ月間入院とリハビリをされたそうです。

その後回復して仕事に復帰されましたが、支えとなったのは奥様の存在。

四人のお子様の子育てのほか、会社でも事務仕事を切り盛りするなど、公私共にサポートされている奥様に対し、「今の自分があるのはかあちゃんのおかげ」と、感謝の気持ちを表されていました。

四　おわりに

普及班便りでは、これからも森林・林業に携わるさまざまな方々を紹介していきます。

皆様の地域で活躍されている方がおられたならご連絡ください。

林業技術センター普及班